

巢鴨警察の僭越と横暴

我等は先づ事實を語らねばならぬ。

ナアポルト時計工場職工對資本主との争議に關し、巢鴨警察は當初から、所謂人民の公正なる保護機關としての立場から全く脱線して、單に資本家の走狗たるの觀を呈してゐた。

去る十日、時計工が、何等正當な理由なきに敲首された十四名の仲間のことに関して會社と交渉すべく工場に臨むと、門上に「本日休業す、警官の外は出入を禁ず」との掲示を發見した。

これは抑も何を意味したか。それは説明するまでもない。巢鴨警察は、争議の如何をも問はざる先きに、既に、資本家の陣營に馳せ參じて犬馬の勞をとらんとしてゐたのである！

職工は止むなく中島支配人に交渉すべく、その自宅へ赴かんとする途上、數十名の警官は十餘名の交渉委員を要撃して暴行を加へ、數名の職工に重傷を負はせた。そして職工の平和な交渉を不可能ならしめるため、交渉委員全部を檢束した。

こゝに至つて時計工は、善後策を講ずべく集會しようとした。然るに巢鴨警察は絶対に、彼等から集會の自由を奪つた。彼等の平和な集會は、武装した暴漢の蹂躪するところとなつてしまつた。

爲めに職工は、巢鴨警察署管外の某所で集會すべく余儀なくされた。そして十五日再び、平和な手段によつて争議を解決すべく試みた。

その日時計工は交渉の爲め、幾多労働団体の應援を得て、隊伍正々、彼等の工場に向つた工場には、その經營管理者一人も居らず、多數の警官のみが占據してゐた。そして時計工を門前に阻止して、暴力によつて解散を命じた。多數の檢束者と負傷者は再びこゝにも生じた。遂に彼等は僅かに七名の交渉委員を中島支配人の自宅に派して、會社の意志を知らんとした。然るに、こゝも多數の警官によつて物々しく守護され、書生と稱して應對に出た者は、實は、巢鴨署の刑事であつたことが曝露した。

この交渉も警官によつて阻止せられた爲め、更らに再び、工場に赴いたのであつた。然るに又、多數の警官は直に挑戰的態度に出で、職工十數名を門内に拉し去り、語るに堪えざる暴行を加へた。血に濁した警官の暴行が如何なるものであつたかは、門外遙かに漏れ聞えた『殺して呉れ！』との悲鳴によつても推察される。

我等は、この警官の暴力の犠牲となつたもの、中に一人の婦人があつたことをも記憶しておかねばならぬ！

事實は以上の如くだ。巢鴨警察署は市民の警察ではなくて、ナアポルト時計會社の警察であることを明かに證據立てた！會社より供給する辨當を喰ひつゝ、何故か會社の守備に任ずる警官の心理は、以上の事實に照らしても資本家側の味方たる事を明瞭に示した！

斯くの如くして、時計工對資本主間の争議は、相方の交渉を妨げられ、徒らに紛糾を重ねんとしてゐる。こゝに於て我等は、一資本家との争議が、轉じて警官との抗争を余儀なくせしめられんとするの危機に立至つたことを知つた。

茲に我等は、巢鴨警察の横暴と僭越を討伐すべく、飽くまで戦ふ事を宣言する。

一九二一年三月

時計工應援團

昭和十一年三月二十七日
河本氏